

半田市中心市街地活性化情報誌<ハンズオン>

HANDAS ON!

vol.
4

2026 AUTUMN / TAKE FREE

発行／半田市 企画・編集／ココロリン(半田市創造・連携・実践センター)

挑戦者が、またひとり。
少しずつ変わって来たね、
このまちの手触り。

旧美濃半薬局座談会

北川尋千さん(HAJIKAMI)
田中元清さん(ランドブレイン株式会社)
阿知波拓さん(ランドブレイン株式会社)

Looperでめぐる、 半田まちなかポタリング

立ち寄りスポット
中心市街地のNEW OPEN
まちと奏でる、わたしの物語
レディバッグ 市野里代子さん

マチプロ
学生によるまちづくりプロジェクト

みんなのひろば
テーマ 私のお気に入りスポット

半田市中心市街地活性化情報誌 HANDAS ON! vol.4 2026年9月発行 発行:半田市 企画・編集:ココロリン(半田市創造・連携・実践センター) 〒475-0853 半田市南末広町120番地の4(おおまた公園北側)

TAKE FREE

みんなのひろば

今回のテーマは【中心市街地の私のお気に入りスポット】

新しいお店もいくつかオープンする中で、あなたのお気に入りには？
日常づかいの飲食店や公園から、特別な1日にしか出現しない場所まで、いろんなお気に入りが集まりましたよ。



書いてくださった場所それぞれでの、皆さんの笑顔が浮かびます。
美味しいものを食べたい時、ゆっくりしたい時など、気分に合わせて参考に出掛けてみてくださいね。

中心市街地のまちネタ募集中!

ハンズオンは、年2回発行の半田市中心市街地活性化情報誌です。半田市の中心市街地の「今!」を伝えるネタを常時募集しています。「こんな素敵な人がいるよ」「こんなお店ができたよ」「こんな活動始めたよ」「これ詳しく知りたいな」など、ぜひお寄せください。

●宛て先／info@handanotane.com

※タイトルに「ハンズオン情報提供」と入れて下さい。

※取材させていただく場合はあらかじめこちらからご連絡いたします。



◎発行／半田市

◎企画・編集／ココロリン(半田市創造・連携・実践センター)

営業時間:10時～19時 休館日:火曜日、年末年始

〒475-0853 半田市南末広町120番地の4(おおまた公園北側)

名鉄知多半田駅より徒歩約3分・JR半田駅より徒歩約4分

◎事務局／一般社団法人はんだのたね

◎お問い合わせ／半田市役所 市民経済部商工企業立地課 TEL.0569-84-0634

ココロリン TEL.0569-77-2363

はんだのたねは、指定管理者としてココロリンの運営管理を行う、エリアマネジメント会社です。

編集後記

HANDA'S ON!は、半田市中心市街地の「今」を切り取るメディアとして発行しています。お知らせであり、まちの記録でもあるこの冊子も、今回で4号目になりました。普段あまり変化を感じなかったとしても、改めて振り返ってみると、人の活動や場所の変化が少しずつ積み重なっていることを実感します。次号は2027年春。その頃には、どんな景色が生まれているのか、今から楽しみです。(ココロリン／池脇)



HANDA'S ON!
WEBサイト

旧美濃半薬局 座談会

江戸時代からの歴史をまとい、いざ挑戦！ 中心市街地から“まちの空気をつくる”



左から、田中さん、北川さん、阿知波さん。まだまだ多くの家財道具が残る旧美濃半薬局の母屋の一角で。少しずつ整理し、交流スペースにする予定。



■北川 尋千さん(きたがわ・のりゆき)／
東海市出身、半田市在住。2020年、半田市岩滑エ
リアに多国籍料理を楽しめる店HAJIKAMIをオー
ブン。建物の老朽化にともない同店を旧美濃半薬局
に移転することに。2026年秋、再オープン予定。

新しい店舗の 魅力とこだわり

——もう少してオープン
を迎えますね(取材は7月)。

北川 これまでのHAJIKAMIを愛していたように、古民家で多国籍料理を楽しめるという点は引き継ぎながら、今回のお店では僕が

カウンターにいることも増えるので、会話ももっと楽しめるようになるかなと思います。お一人での来店も歓迎ですし、奥には薬の倉庫だった場が個室空間に生まれ変わるので、グループでも良い時間を過ごせますよ。

阿知波 夜に灯りがともると、まちの雰囲気



■(左) 田中元清さん(たなか・もときよ)／鳥根県出身。まちへの妄想を語りながら周りの人を巻き込んでいく、まさに「地域まみれ」を地で行く情熱家。
■(右) 阿知波拓さん(あちわ・たく)／知多市出身。大学で空き家活用を学び、ハウスメーカー勤務を経て、現職。設計やSNS発信を担当。

明治時代の人気作家 小栗風葉生誕の地としても知られる、旧美濃半薬局。江戸時代まで遡れる薬局と隣の母屋は解体の危機にありましたが、まちづくり会社が買い取り。地元の飲食店が1階で移転オープンすることになりました。ランドブレイン株式会社田中元清さん・阿知波拓さんの3人にお聞きしました。

プロジェクトの 始動と移転への決断

——ランドブレインさんは知多半島の企業ではないですね。どのような経緯で建物の購入を？

田中 僕らは東京に本社、名古屋に支社をもつ、都市コンサル会社です。特徴は「地域まみれ」になって事業を進めること。机上ではなく地域にしっかりと入って地域課題の解決を目指します。全国各地で古き良きものがどんどん壊され価値を失っていく中で、古民家をまちづくりに活かすのに「こういう方法があるよ」と示す実践例になればと思います、今回チャレンジすることにしました。

——HAJIKAMIさんは岩滑に店舗を持つ中、お店の移転を決めたんですね。

北川 岩滑の建物自体が老朽化してきていたで、いずれは移転をと考えていたんですが、田中さんから今回のお誘いをいただいて、移転することにしました。この建物もつ雰囲気の良い、中心市街地という立地、住まいや別店舗との移動のしやすさなどを考

すね。また、L字のカウンターは、使い勝手に合わせて付け替えはしましたが、面影は大切に守りました。そのあたりも楽しんでいただけたら嬉しいですね。



カウンター越しにお客さんとの会話も弾みそう。色合いや雰囲気は、以前のカウンターから引き継いだ

十年後の未来と描くまちの姿

——さて十年後、半田がどんなまちになっていたらいいと思いますか

北川 今、娘が5歳なんです。十年後は15歳。中高生になった頃「半田って、めっちゃカッコいいよね」と言ってもらえるようなまちでありたいですね。娘に限らず、若者たちにとってカッコいい大人がたくさんいるまちが僕の理想。そのためにはやはり、退路を断つ覚悟で挑戦していく人間も必要だと思います。毎日胃が痛いですが、頑張りますよ。

田中 北川さんのように先陣を切って熱く走れる人は、まちづくりに絶対に必要です。でもそんな風に走れる人ばかりではないから、僕らはこの場を使って、人と人が出会う「ぎっ



旧美濃半薬局(半田市銀座本町)
薬局として営業していたころ(2015年撮影)

改修の苦労と深まる信頼関係

——建物の改修や店舗部分のリノベーションはスムーズにいったのですか。

北川 いやいや、金銭的には非常にシビアで、何度も諦めようかと思いました。

阿知波 今は普通、古民家改修後にテナント募集という形が取られています。でも本来は、入居店舗も含めて、関わる人たちが一緒につくっていくのが理想だと思うんです。

かけをたくさん生み出していきたいですね。空間に人が集えば、きっと何かが生まれる。それを小栗風葉が生まれた歴史ある場の力を借りて、形にしていきたいですね。



HAJIKAMIはいよいよ秋にオープン。その後もこの建物を生かした交流スペースやゲストハウスなどの展開が予定されています。新しい場と挑戦者。JR半田駅と半田運河の間に立つこの地を出発点に、まちの空気がどう変わっていくのか。一人ひとりの関わりも問われています。

文豪・小栗風葉の生誕地『旧美濃半薬局』

旧美濃半薬局は、江戸時代から続いた薬種商「美濃半」の歴史を今に伝える建物。明治8年、この地で誕生した文豪・小栗風葉は、尾崎紅葉門下の四天王の一人に数えられ、『青春』や、師の未完作を書き継いだ『終編金色夜叉』など、200点を超える作品を発表しました。現在もその母屋が残り、往時の面影とともに、郷土が生んだ文士の存在を感じることができます。
住所：半田市銀座本町5-6



小栗 風葉



4 **_unga**
ワークショップ「醸しらぼ 酢」
ミツカン発祥の地・半田の歴史を感じながら、創業時の
粕酢「山吹」や多彩なお酢を楽しめる体験です。
場 所：_unga (国指定重要文化財 小栗家住宅内)
要問合せ：070-6436-3693



8 頭を打ちそうな高さの高架下



10 カレット洋菓子店



9 pivot coffee stand



3 ミツカンマークのある黒壁に囲まれる



5 ガラスの箸置きづくり体験



6 松華堂菓子舗



7 酒場 やみくろ



2 ばあむくうへん研究所

半六庭園のランプ飾り

秋から冬にかけて、半六庭園に約600個のランプ飾りが登場します。昼は色とりどりのシェードが庭園をやさしく彩り、夜はあたたかな灯りが幻想的な雰囲気演出。期間中の金・土曜は19時まで開園時間を延長します。半田運河周辺のお散歩や写真撮影とあわせて楽しめます。

期間：9月25日(金)～11月8日(日)
時間：午前9時から午後5時(金・土は午後7時まで)



1 幻想的な半六庭園のランプ飾り

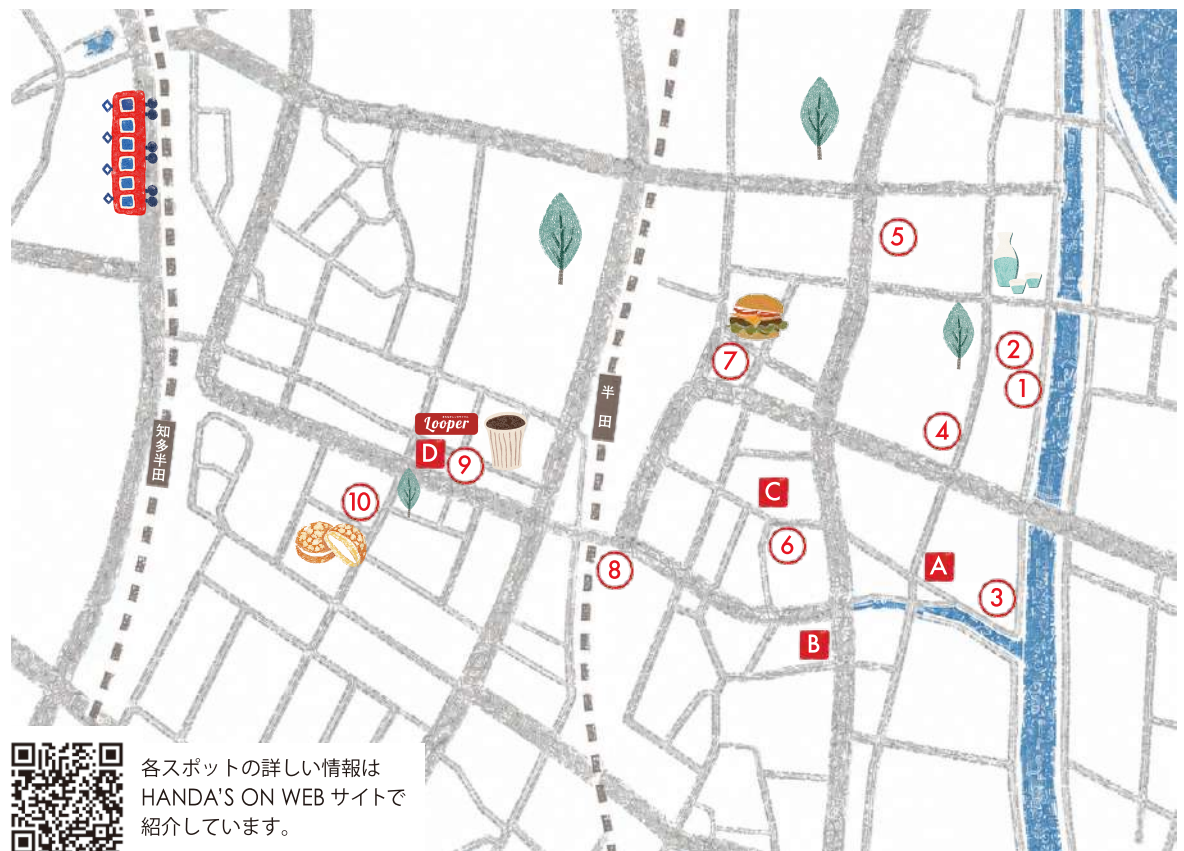
- ①半六庭園／期間限定で幻想的なランプ庭園に。
9時～17時(金・土は19時まで) 中村町1-7
- ②ばあむくうへん研究所／テイクアウトに最適なこだわりバームクーヘン。
12時～16時(木休) 中村町1-7(半六庭園内)
- ③半田運河／ミツカンミュージアムの前の黒壁に囲まれるエリアが絶好の撮影スポット
- ④_unga／ワークショップの他に、知多半島の発酵調味料やお菓子の販売も。10時～16時(木休)
- ⑤ギャラリーiramaru／ガラスものづくり体験。
火・木10時～15時 銀座本町1-17＜要予約＞0569-58-5800

- ⑥松華堂菓子舗／老舗の和菓子店。
8時半～17時半(火・水休) 御幸町103
- ⑦酒場 やみくろ／一口頬張るとジュワッと肉汁が溢れ出すバーガー。
水曜～土曜：11時半～14時・月曜～土曜：17時～23時(祝休) 山崎町34
- ⑧高架下／道マニアが注目する高さ制限1.2m
- ⑨pivot coffee stand／こだわりのスペシャルティコーヒー。
10時～17時(定休日はSNSで確認) 南末広町120-4
- ⑩カレット洋菓子店／長く愛される定番「ブッセ」。
9時～18時半(定休日はSNSで確認) 広小路町153-8

知多半田駅からJR半田駅、半田運河へ。歩くには少し広いまちなかも、自転車を使えば、気軽にひとめぐりできます。新しくできたお店に立ち寄り、テイクアウトを片手に、お休み処でひと休み。こいで、食へて、寄り道しながら、自分のペースで半田の中心市街地を楽しむ小さなポタリングをご紹介します。いつもの道にも、まだ知らない発見があるかもしれません。ぜひ気軽に試してみてください。



Looper 貸出場所／ココリン(半田市南末広町120-4) 貸出可能時間／10時～18時(火曜定休)
料 金／◎普通自転車・3時間以内：500円・3時間超～当日内：800円 ◎電動アシスト自転車・3時間以内：800円・3時間超～当日内：1200円



各スポットの詳しい情報は
HANDA'S ON WEB サイトで
紹介しています。

中心市街地の NEW OPEN !!

一点物を届けるハワイアンキルト



すべて手縫いで仕上げた一点物のハワイアンキルトや刺繍雑貨が並びます。

ekolu34

半田市南末広町120-4
ココリン内
不定休(平日：10時～15時／
土日祝：10時～17時)
Instagram @ekolu34

ただのネイルサロンじゃない新拠点



ネイルサロンの他にレンタルスペースと子どもネイル塾を備えた、まちのコミュニティスペース。

ACE Nail

JR半田駅徒歩2分
半田市御幸町32
詳細・予約はInstagramへ
@ace_nail.03

世界の味が集う、まちなかの多国籍レストラン



歴史ある建物を活かし、世界各地の料理やカレー、クラフトビールを楽しめます。

HAJIKAMI

半田市銀座本町5-6
TEL 0569-89-6333
営業日はInstagramで確認
@hajikami_handa

半田運河でひと休み、季節の甘味



中村街園内のお休み処に、季節の甘味や餅菓子を楽しめる茶屋がオープンしました。

大蔵餅 蔵街茶屋

半田市中村町2-12
月曜・木曜休
詳細はInstagramで確認
@ookuramochi_kuramachichaya

まちと奏でる、わたしの物語

～半田市中心市街地のステキビト紹介～

まちの1等地にある店で
パン屋に挑戦。
新たな風を呼ぶ

レディバッグ

市野 里代子さん

(いちのりよこ)

ワークショップ参加が始まり

JR半田駅から名鉄知多半田駅に向かう交差点の一角にある「レディバッグ」。女性の美と健康をテーマに洋服が並ぶこのお店、入口から感じられる雰囲気は最近少し変わってきたと思いませんか。お店を営むのは市野里代子さん。ここ半年ほどで、地元の芸術家さんの作品を展示販売したり、店内でパンを販売したりと、いろいろな「コラボ」に挑戦しています。



きっかけは、ココロリンの建設を機に、地域の私たちとまちの未来図を考えるワークショップに参加してみたことだったそう。「初めまじりの出会いも多く、そのワークショップから派生した市民団体「コトコトラ」のメンバーの1員に、まちづくりの講座にも参加するうち、お店の軒先を使ってパンを販売したら、通勤の人も嬉しいし、私たちも新たなお客を呼び込めるきっかけになるのでは、と考えたんです」

つながりで始まる「パン屋」

「お店でパンが売りたい」と声に出してみると、すぐに「パン屋さん紹介できますよ」という人と出会えました。その2か月後には「ここパン



レディパン…レディバッグで毎週水曜日10:30～、土曜日14:00～販売。名古屋や乙川にあるテラ・テールのパンがここで買える



ここパン(今日はここがパン屋さん)…毎月第2木曜日8:00～。月替わりでいろんな場所+いろんなパンが楽しめる



知多半田エリア

レディバッグ
半田市南末広町123-2
0569-21-7301
10:00-18:00 火曜休

(今日はここがパン屋さん)」という呼び名で「コトコトラ」メンバーの店で順に月1回朝にパンを販売する形がスタート。「初回は50個ぐらいいと用意してみたら、完売。2か月後には200個が売れました。そこから1年半「コトコトラ」で協力し合いながら続けてこれました。「ボランティア的に始まりましたが、これを商店街が自分のお店の活性化につなげていかなければならない。これからはそこをしっかりと考えていかねばという時期ですね」

また、ここパンが始まったころ、半田市の有名店「テラ・テール」から声が掛かり、レディバッグでも週2回、同店のパンを販売することに。「お店にパンを置くようになって、これまで皆無だった男性客が来てくださるようになりました」と変化を感じています。

実はいま、このようにお店の中にお店を置く取り組みは「ショッピングインショップ」と呼ばれ、まちを活性化する新たな方法として全国的に注目されています。市野さんのような取り組みがまちなかに広がった先に、どんな価値が生まれるのでしょうか。つながりが生む新たな風景に、この先も目が離せません。

現在進行中!
半田で挑む学生まちづくり

マチプロ
move on!

マチプロとは?

「マチプロ MOVE ON」は、学生が半田市の中心市街地を舞台に、自らのアイデアで地域課題の解決や魅力創出に挑む実践型共創プロジェクトです。単なるイベントのお手伝いではなく、企画から実行・検証までを約1年かけて自分たちの手で動かしています。今年度は、全く異なるアプローチで挑戦する2チーム(総勢19名)が活動中です。



建築・リサーチ・広報など役割を分担し、夢中で未来のまちを創り上げるメンバーたち

女子大生チーム「こえ」の挑戦
食と商業で地域に笑顔を

自ら苗から育てた約95kgのさつまいもを原資に、地元洋菓子店との共同商品開発やマルシェ出店を目指すチーム「こえ」。安全な商品を届けるための食品衛生関連の資格取得、常温保存技術の調査、SNSでのファンづくりなど、本格的なビジネスの仕組みづくりに挑んでいます。畑仕事から商談・PRまで、一歩ずつ夢を形に変える彼女たちの今後にご期待ください。



日々のリアルな奮闘はInstagramで発信中!ぜひフォローして応援してくださいね



koe Instagram

半田高校附属中学校
マイクラチームの挑戦
デジタルで描く未来の半田

教育コンテスト「Minecraftカップ」全国大会を目指す17名の中学生。大会テーマ「みんなが輝く!β(ベータ)世代の未来のまち」のもと、フィールドワークで半田の歴史や街並みを調査。これから生まれる未来の「β(ベータ)世代」が輝く半田市を想像しながら、メタバース(仮想空間)上に理想の街を建築しています。創造・連携・実践拠点の「ココロリン」を舞台に、若者目線の居場所や賑わいを可視化する熱い挑戦が続いています。

9月の「市民協働フェスタ」や11月の「ひらくデイズ」では、市民の皆さんが実際に彼ら・彼女らの取り組みを体感できる体験ブースを出展予定です。街なかやココロリンで活き活きと活動する学生たちを見かけましたら、ぜひ温かいお声がけと応援をお願いします!